

目次 第9回大会（千葉県立中央博物館，2010年7月10 - 11日）報告／
原田 浩……………389

第9回大会（千葉県立中央博物館，2010年7月10-11日）報告

Report of the JSL 9th Annual Meeting at Chiba, 10 – 11 July 2010

梅雨時で心配された天候も持ちこたえ、暑い中での大会となりました。おかげさまで多数のご参加を得て、盛会のうちに無事終了しましたので、報告いたします。

* * *

大会概要

会場：千葉県立中央博物館（千葉市中央区）

会期：2010年7月10日（土）～11日（日）

スケジュール

7月10日

- 10:00-11:45 評議員会（会議室）
- 11:45-12:30 昼休み
- 12:30-13:45 総会（講堂）
- 13:45-14:00 休憩
- 14:00-15:00 公開講演会（講堂）
木下 薫（明治薬科大学）「薬としての地衣類」
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-16:15 研究発表A（講堂）
- 18:00-20:00 懇親会（千葉市内）

7.11（日）

- 10:00-12:00 一般発表B（講堂）
- 12:00-12:55 昼休み
- 12:55-14:00 ミニシンポジウム（講堂）
「東アジア産痲状地衣の分類研究における進展」
- 14:00-14:15 休憩
- 14:15-16:15 一般発表C（講堂）
- 16:15-16:20 閉会式

大会参加者 46名（講演会のみ参加者も含めると58名）

公開講演会参加者 55名

7.12（月）（関連行事）

- 10:00-16:00 地衣分類ワークショップ「狭義ウメノキゴケ属（*Parmotrema*）と近縁属」

初日（7月10日）

大会初日の一般参加者のプログラムは12:30から始まる総会ですが、既に9時ごろから来館される方もおいで、休憩室となる研修室にて休憩されるなりして過ごされる間、評議員会は別室の会議室にて開催されました。



図1. 木下薫先生による公開講演会の様子.

その会議を受けて総会は講堂にて開会しましたが、進行役の新庶務幹事の木下薫先生が猛スピードで議事を進行され、13時頃には終了しました。（評議員会と総会の報告は別途ありますので、お待ちください）

14時からの公開講演会は、まとも木下薫先生(図1)、演題は「薬としての地衣類」、地衣類がどんな生き物かといった内容から始まり、ピーターラビットの作者と地衣類との関わりに触れられ、本題の「薬」へと進み、ビジュアルで解りやすい講演でした。学会員以外の参加も10名ほどあって、公開講演会らしい雰囲気でした。10時からここまでは、木下先生は大活躍、お疲れさまでした

15:15からの研究発表4題は、分類関係です。発表者の原田以外の所属は、千葉県立中央博物館共同研究員です。当館では、当館の資源を活用していただくため、外部の方を共同研究員あるいは市民研究員とする制度があります。地衣類については積極的に受け入れているの

で、このようになりました。ご興味お持ちの方はお申し出ください。さて、発表も円滑に終わり、博物館でのスケジュールは無事終了した。

京成千葉中央駅前の懇親会会場へは、博物館のすぐ前から出るバスを多くの方が利用され、早めに入場され、ご歓談いただいていたいました。雨も降らず幸いでした。参加者約45名に対し、こじんまりとした会場は広すぎず狭すぎず、食事と会話を楽しむには程良い広さでしたでしょうか。会長のあいさつに始まり、吉村元会長の乾杯の音頭、終わりのころには次期大会開催予定地の神戸薬科大学棚橋先生のあいさつ、賑やかな2時間はあっという間に過ぎ、この間、懇親を深められたと期待します。私も、初対面の方や、普段お会いできない方と話し、貴重な時間を過ごすことができました。（大会実行委員長としては、余興も考えなくてよいので、その点とても楽でした）

二日目（7月11日）

やはり暑い日です。一般発表16題、ミニシンポジウム2題もあって、スケジュールはきつい。午前中は連続8題、休憩なしの発表が続きました。うち5題は恒例の、秋田県立大学の学生さんによるものです。他に神戸の竹仲さん、関西大の下野さん、そして最後を飾ったのが、岡山大学の小杉さんの発表です。彼女はこの春、めでたく兵庫県立大学より博士の学位を授与され、また、これまでに本会にて積極的に研究発表をされたことが評価され、今回「学術奨励賞」を受賞されることとなりました。発表直後、ステージは表彰会場と化し、会長から賞状と副賞が授与されました。次いで、ご本人にスピーチをしていただきました。打ち合わせなしに、マイクを突然差し出したにも関わらず、堂々のスピーチでした（図2）。

小杉さんの今回の発表は、マイクロCTを使用し、切片を作らず地衣の内部形態を3次元的に観察され、見事な映像を紹介されていました。分類屋の私にとってとても興味深かったので、表彰式後も引き続き見せていただきました。おかげで昼食時間が短くなり、午後の部に間に合わせるために、苦しい思いをして急いで弁当を食べなくてはなりませんでした。（小杉さん、まきこんでしまってください）。

ミニシンポジウムは「東アジア産痲状地衣の分類研究における進展」。今年初めころには、どんなテーマにしようか迷っていましたが、千葉の博物館らしいテーマにするか、それとも私の専門の分類か？どちらかという



図2. 学術奨励賞受賞の小杉真貴子氏。

後者が希望でしたが、誰をスピーカーとするかで悩みました。そこに韓国のHurさんから、分類をやっているJoshi氏が参加するとの情報を得て、彼に加わってもらうことで解決しました。Joshiさんはインドのダイダイゴケ科の分類（Morphotaxonomic studies on lichen family Teloschistaceae from India）で National Botanical Research Institute, Lucknow（インド）から2008年に学位を取られ、韓国のSuncheon National UniversityにPost Doctoral Fellowとして滞在中のことです。インドでの研究を活かし、韓国のダイダイゴケ科を明らかにした結果を「Lichen genus *Caloplaca* (Teloschistaceae) in South Korea」として紹介されました（図3左）。彼はとてもアクティブに研究され、

日本の隣国の地衣フロラを次々と解明していく勢いを感じさせました。もう1題は当館共同研究員の坂田さん（図3右）による「日本産リトマスゴケ科地衣類の分類」です。彼女は2008年の秋から当館の講座「地衣類の分類」に通い始め、12月から市民研究員として、まずは日本



図3. ミニシンポジウム演者。左はJoshi氏、右は坂田氏

産リトマスゴケ科カシゴケ属を研究され、Lichenology 8巻2号に成果を論文として発表されました。その後も、同科の幾つかの属について研究を進められています。これまでの日本における研究史と、自身の研究成果を併せて、リトマスゴケ科について紹介されました。坂田さんの研究の成果は、アマチュア分類屋に希望を与え、また、プロには良い刺激となったと思います。

最後のセッションは8題、新たな勢力が目白押しでした。まずは明治薬科大学の学生さん（新井さん、田中さん、福丸さん）による化学成分に関する3題で始まり、川又さんとHurさんの発表がありました。筑波大の院生河崎さんの遺跡関係の発表と、岐阜大学の川上さんの「地衣類調査をテーマにした科学教育プログラムの構築に向けて」は全く新しい分野です。

毎回感じるのですが、地衣学会はカバーする分野がとて幅広い、変化があって多くの方が楽しむことができると思います。逆に内容がほとんど分からない発表も多くなりますが、そんな時は、どんな人が質問やコメントをするかをみることで、分野のつながりを知ることができておもしろいですね。

おわりに

今年は3月からの企画展示「雲南の地衣類」の担当として、また7月4日オープンの企画展「海藻、35億年の旅人」の展示準備により、大会準備に十分な時間が割けず、準備不足の部分があり、皆様にはご迷惑をお



図4. スタッフ一同。

かけしました。お詫び申し上げます。ふたを開けてみれば一般発表20件となり、参加者46名と賑やかな大会となり、ほっとしました。一方、発表件数が多くて、プログラムが窮屈になってしまい、せっかくのご来館なのに、展示も館内でも案内できないという残念な一面もできてしまいました。また休憩時間も短く、もっと歓談する時間があっても良かったのかなとも思いました。おやつもだいぶ余ってしまいました。いえいえ、欲を言えばきりがありませんね。主催者としては大満足の大会でした。皆様ありがとうございました。

大会最後にも紹介しましたが（図4）、日頃から博物館でボランティアをされている方をはじめ、市民研究員・共同研究員の方にボランティアとして働いていただき、今回の大会を運営することができました。平山さん、甲斐さん、坂田さん、東さん、木村さん、石井さん、ありがとうございました。

●複製される方へ

本誌に掲載された著作物を複製したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●*Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*, no. 105, pp. 389-392: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by the Japanese Society for Lichenology, 30 July 2010.

日本地衣学会ニュースレター 105号

発行日：2010年 7月 30日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒203-0021 東京都清瀬市野塩 2-522-1

明治薬科大学 生薬学教室内

©2010 日本地衣学会 (© 2010 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複製等は固くお断りいたします。